

2025 年 12 月吉日

会員の皆様へ

社会系教科教育学会会長 吉水 裕也
第 37 回研究発表大会実行委員長 山内 敏男

2025 年度
社会系教科教育学会 第 37 回研究発表大会（第一次案内）
大会テーマ：教育の柔軟化に対して社会系教科はどう向き合うか

向寒の候、皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、2025 年度 社会系教科教育学会第 37 回研究発表大会を下記のとおり開催することとなりました。会員の皆様方はもとより、会員以外の方々にも広くお呼びかけいただき、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

つきましては、研究大会への参加、自由研究発表の申し込み等を所定の方法により期限までに行っていただきますよう重ねてお願い申し上げます。

記

I 研究大会概要

1 日 程

2026 年 2 月 21 日（土） 自由研究発表 I，シンポジウム 理事会，総会（対面型）

8:30	9:30	12:00	13:30	16:00	16:10	16:45
受付	自由研究発表 I	理事会 休憩	シンポジウム		総会	

2026 年 2 月 22 日（日）課題研究，自由研究発表（対面型）

9:30	12:00	13:00	15:30
自由研究発表 II	休憩	課題研究 I・II	

2 主 催  社会系教科教育学会

3 後 援 国立大学法人兵庫教育大学

（申請中） 兵庫県教育委員会・神戸市教育委員会・加東市教育委員会・日本教職大学院協会

Ⅱ 内容

1 大会およびシンポジウムテーマ

教育の柔軟化に対して社会系教科はどう向き合うか

2 シンポジウム（テーマは大会テーマと同様）

日 時： 2月21日（土） 13：30～16：00 対面型

現代社会は、グローバル化、情報技術の急速な進化、複雑化する社会課題といった変容の渦中にある。こうした時代背景を踏まえ、教育の質・公平性・持続性を三位一体で高めるための包括的な改革の内容として、資質・能力の育成を目指した目標や内容の見直し、デジタル学習基盤の活用などの指導・評価の改善が求められている。これらの理念・方向性を実現するための方策として、学校教育全体を見通したカリキュラム・マネジメントの推進や児童生徒や地域の実態に応じた教育の「柔軟化」が検討されている。

一方で、依然として旧来の知識偏重型・系統主義的なカリキュラムから本質的に変わらないという構造的なジレンマや困難さに直面している実践者の姿があることは否定できない。とりわけ社会系教科では、「総合的な学習（探究）の時間」との関わりや「よりよい社会の実現」に直接的に関わる資質・能力を育む役割を負っていることを踏まえるならば、「概念」の位置づけや「探究」の実質化は改めて問われる必要がある。

そこで、本シンポジウムでは教育の柔軟化は何のために何をを目指すのかを問い、教科の固有の価値を発揮できるのか、柔軟な教育課程を編成・実施している実践事例報告に加え、研究者による整理、提案も交えたい。そして「教育の柔軟化」という名のもとに進む変革に対し、社会系教科がいかに教育的課題と向き合い、その固有の価値を発揮・実践できるのか、現職教員と研究者の対話・協働の場をもち、議論を図りたい。

シンポジスト	大矢幸久	（学習院初等科）
	鬼塚 拓	（宮崎市立宮崎中学校）
	角田将士	（立命館大学）
指定討論者	吉水裕也	（関西学院大学）
コーディネーター	服部一秀	（山梨大学）
	山内敏男	（兵庫教育大学）

2 課題研究

日 時： 2月22日（日） 13:00～15:30

課題研究Ⅰ 初等社会系教科教育において教育の柔軟化にどう向き合うか

課題研究Ⅰでは、本シンポジウム「教育の柔軟化に対して社会系教科はどう向き合うか」に基づき、初等社会系教科において教育の柔軟化は何のために何をを目指すのかを問い、教科の固有の価値を発揮できるのか、柔軟な教育課程を編成・実施している実践事例報告に加え、研究者による整理、提案も交えたい。そして「教育の柔軟化」という名のもとに進む変革に対し、初等社会系教科がいかに主体的に向き合い、その固有の価値を発揮できるのか、現職教員と研究者の対話・協働の場をもち、議論を図りたい。

シンポジスト	長瀬拓也	（同志社小学校）
	中村光則	（広島県立広島叡智学園 中学校・高等学校）
	岡田了祐	（富山大学）
指定討論者	岡崎 均	（大阪体育大学）
コーディネーター	松岡 靖	（京都女子大学）
	吉川修史	（兵庫教育大学）

課題研究Ⅱ 中等社会系教科教育において教育の柔軟化にどう向き合うか

課題研究Ⅱでは、本シンポジウム「教育の柔軟化に対して社会系教科はどう向き合うか」に基づき、中等社会系教科において教育の柔軟化は何のために何をを目指すのかを問い、教科の固有の価値を発揮できるのか、柔軟な教育課程を編成・実施している実践事例報告に加え、研究者による整理、提案も交えたい。そして「教育の柔軟化」という名のもとに進む変革に対し、中等社会系教科がいかに主体的に向き合い、その固有の価値を発揮できるのか、現職教員と研究者の対話・協働の場をもち、議論を図りたい。

シンポジスト	五十嵐辰博	（千葉大学教育学部 附属中学校）
	久保美奈	（千葉経済大学）
	大脇和志	（宇都宮大学）
指定討論者	桑原敏典	（岡山大学）
コーディネーター	濱野 清	（兵庫教育大学）
	福田喜彦	（兵庫教育大学）
	阪上弘彬	（千葉大学）

3 自由研究発表

日 時： 2026年2月21日（土）、22日（日） 対面型

発表資料は、大会 Web サイトからの配布といたします。

Ⅲ 大会参加・自由研究発表申込について

1 参加申込・参加費振込の開始

2025年12月18日（木）

2 参加・発表申込の期限

- | | |
|------------------|----------------|
| (1) 自由研究発表申込の締切日 | 2026年 1月 6日（火） |
| (2) 自由研究発表要旨の締切日 | 2026年 1月 9日（金） |
| (3) 自由研究発表資料の締切日 | 2026年 2月 1日（日） |
| (4) 大会参加申込の締切日 | 2026年 2月13日（金） |
| (5) 参加費事前振込の締切日 | 2026年 2月13日（金） |

3 大会参加費 3,000 円（事前振込） （当日支払いの場合は 4,000 円）

4 参加費振込口座（郵便局）

- ・口座名称： 社会系教科教育学会
- ・郵便振替口座記号番号： 0 1 1 1 0 - 6 - 1 3 3 8 5

同封の振込用紙以外を使用する場合は、**通信欄に大会参加費**とお書きください。年会費等をあわせてお支払いの際も、**通信欄に内訳がわかるように**必ずお書きください。

振込後に参加をキャンセルされた場合の返金はできません。あらかじめご了承ください。

5 参加・発表申込（登録）（以下 重要）

- ・大会に参加される方は、2月13日（金）までに Web サイトから大会参加登録と郵便局にて参加費振込をしてください。
- ・社会系教科教育学会 HP から大会 Web サイトへと入って、フォームに必要事項を入力し、送信してください。
- ・学会 HP アドレスは次の通りです。 <URL> <https://essdra.sakura.ne.jp>
- ・Web での「参加登録」と郵便局からの「参加費入金」の両方の確認ができて、「参加受付」完了となります。参加登録だけでは受付完了とはなりませんのでご注意ください。
- ・「参加登録」が受け付けられないと「発表登録」には進めません。
- ・発表登録者には、発表資料（書式自由、pdf ファイルで容量 20MB まで）をご執筆いただきます。期日（2月1日）までに作成し、大会 Web サイトからアップロードしてください。

6 その他

- ・シンポジウム、課題研究については、一般の申し込み受付はいたしません。
- ・大会プログラムは1月下旬にお送りする予定です。
- ・食堂は営業していません。コンビニ（電子決済専用）はございますが弁当の在庫は少ないので、昼食については各自ご用意の上、お越しください。

7 問い合わせ先

〒673-1494 加東市下久米 942-1 兵庫教育大学内
社会系教科教育学会 第 37 回研究発表大会事務局 山 内 敏 男
e-mail: tyamachi@hyogo-u.ac.jp